

平成26年8月分

合言葉は 帯締めと言えは ハワイ

企業が成長し続けるためには、社員をワクワクドキドキさせるような大きな目標が必要だ。例えば「世界一、日本一、業界一」の会社になる。この製品、技術で日本一になる等と、大企業、急成長企業の社長は言います。この言葉を用いて本当にワクワクドキドキする社員はどのくらいいるのでしょうか。私は大企業の社員のことにはよくわかりません。しかし、中小企業の社員はそう思っているのではないのでしょうか。中小企業のほとんどの会社は上場を目指しておりません。急成長も望んでいません。会社が100年先まで存続すること、コツコツと少いづつ成長すること、会社が潰れないで社員の雇用を確保できることを望んでいます。社員は給料、賞与が今よりよくなること、家族のために少しでも長く働けることを望んでいます。では、何が社員をワクワクドキドキさせるのが、それは会社の目標の他に社員自身が喜ぶことを目標にすべきではないかという提案です。社員は社長が自分達のことをいかに大事にし、思っていてくれるかを気にします。社長は社員がどう自分のことを思っているかを気にします。そこで合言葉として、帯締めのある賞与を現金で支給できる会社にやがて存続するという目標です。手取りで100万円の賞与を支給できる会社になつた社員がどれだけ喜ぶのでしょうか。今ではおまかせ。今は赤字でもみんなで頑張つて手取りで100万円の賞与をもつる会社にする。最初は1人でもやがて2人、3人と増えていけば希望が持てるのではないのでしょうか。しかし、会社には手取り100万円をもつる優秀な社員もいれは普通の社員、成果をなかなか出せない不器用な社員もいます。全員が帯締めは無理です。そこでハワイです。海外旅行です。海外旅行は贅沢と思つて一度も会社で海外旅行にいった会社はほとんどです。社員の中には一度も海外に行つたことのない者、生活のため一生無理だと思つている者もいます。全社員で海外旅行に行くために全社員で努力して目標の利益を出すのです。利益が出たとして海外旅行で甘んじ、海外旅行に全員で行くために全社員で頑張つて利益を出すのです。

多くの会社が赤字です。賞与も出せない会社が30%以上あります。それでも2020年までには全社員で一丸体制となり、帯締めのある賞与と海外旅行に行こうと社長と社員が合言葉にするにはこの夢は実現できると確信しています。あと6年もあるのですか。売上は1年、利益は3年、人材は10年と言われています。3年で利益を出し、6年目には夢の実現です。

私は中小企業の社員教育の基本は、社員と家族を幸せにするという社長の思いと環境整備にあると思つています。挨拶もつまみ食いもできない人や返事のできない人、お礼も言えない人を外の研修に出しても効果があるのでしょうか。まず社長が先頭に立って挨拶、返事、掃除等を実践し、社内の環境を整備し、社員の心を前向きにしながら研修をしたほうが効果があがります。大企業と中小企業では、社員の質が違います。その差を理解したうえで何かをやるかという、挨拶、掃除等の行動が導入して習慣化することにより社員の質をおがます。「形より心に至る」全社員の心が1つになれば社長の方針が徹底し、必ず利益が出て、帯締めのある賞与とハワイ旅行は実現できます。吉田士 満